

2026RED 海外サマープログラム in King's College London  
応募要件詳細について

1. 応募要件

- 高1以上（渡航時）
- 応募時にCEFR B1\*以上の英語力があること。\* 英検2級（1950以上）、GTEC960以上、TOEFL ITP 433以上など
- 出発までに英語力をCEFR B2まで上げる努力ができること。
- 出発前の事前学習および帰国後の報告会に参加すること。

2. 参加人数：最大15人

3. 応募方法：応募書類を下記締切までに提出（作文・英語力を証明する書類のコピー含む）

4. 選考方法：書類選考

別途インタビュー（オンライン）をさせていただく場合があります。

5. 締切：

- 一次締切：2026年3月31日（火）17時まで\*

\*一次締切で、定員15名に達した場合は、その時点で募集を締め切ります。3月31日（火）17時以降に、REDプログラムのHPのニュース欄で募集を締め切るかどうかの掲示をしますので、提出が一次締切を過ぎる場合は、そちらを必ずご確認ください。

<https://www.musashigakuen.jp/torikumi/red/index.html>

一次締切までに応募した方で、書類選考の結果インタビューが必要と判断した方については、4月1日（水）～4月3日（金）に対面またはオンラインでインタビューを行います。（3月31日17時以降にメールかお電話にて時間を調整させていただきます）

- **（一次締切で定員に満たなかった場合のみ）** 最終締切：2026年4月13日（月）17時まで  
最終締切までに応募した方で、書類選考の結果インタビューが必要と判断した方については、4月14日（火）か15日（水）の17時から19時の間で対面またはオンラインにてインタビューを行います。

6. **英語力の要件について**：応募締切時点で、CEFR B1以上の英語力があることを示す書類（外部英語試験の結果のコピーなど）を提出すること。

7. **取消料について**：募集案内チラシ記載の取消料についてのご案内にあるとおり、お申込日以降取消料がかかります。

8. その他：パスポート未取得の方は早急に申請をお願いします。

~~武蔵生と現REDイブニングプログラム（2025-2026）受講生には奨学金あり。~~

プログラム参加者全員に奨学金あり。（武蔵生：500,000円、他校生：400,000円）

下記のQRにアクセスし、アンケートにご協力ください。↓



応募書類提出先・問い合わせ先：学校法人根津育英会武蔵学園 REDプログラム推進センター

〒176-8533 東京都練馬区豊玉上 1-26-1

メールアドレス：red-office@musashi.jp

TEL：080-9527-2681（開室時間 9:00～17:00 土日祝日休み）

2025年プログラム参加者の体験談：

突然ですが、皆さんは英語が得意ですか？

ここで私が言う「得意」とは、テストの成績が良いという意味ではありません。「英語話者と実際に会話するとき、スムーズに・正確に話せるか」ということです。こう聞かれると、多くの人が「分からない」と答えるかもしれません。もちろん学校によっては外国人の先生の授業がありますし、REDプログラムに通ってればティーチング・アシスタントと英語で会話する機会もありますが、日本に住んでいると、そんな機会はなかなかありませんよね。

さて、本題に入りましょう。RED Summer Program King's College London（以下 KCL）についてです。

このプログラムでは、ロンドンの名門・King's College で、実際の大学生が受けているような英語講義を体験できます。さらに、ケンブリッジやオックスフォードといったイギリスの都市を訪れたり、本場の演劇を鑑賞したりと、内容はとても盛りだくさんです。もちろん、海外での活動ですから、会話は基本的に全て英語になります。

そしてここからが重要なのですが、どんなに英語が「得意」でも、ネイティブの英語を聞き取るのは本当に難しいです。

「先生やアシスタントと英語で話し慣れているし、成績も悪くない。全く聞き取れないなんてありえない」と思う方もいるかもしれません。実際、私もそうでした。

ですが考えてみてください。学校やREDプログラムの外国人の先生やアシスタントは、日本人に伝わるように、聞き取りやすい話し方をしてくれています。一方イギリス現地で出会う人々は、私たちが日本人である事など気にもせず、British な発音で次々と話しかけてきます。

その速さといったら…！

落ち着いて聞けばなんとか理解できるかもしれませんが、これはテストのリスニング問題ではありません。相手の発言を理解し、返事を考え、英語で返し、会話を成立させる必要があります。

帰国子女やネイティブと日常的に接している人なら問題ないかもしれませんが、そうでない人は、プログラム中に一度は「英語が聞き取れない」という壁にぶつかるでしょう。さらに King's College で講義を受ける際は、リスニング力に加えて集中力も必要となるため、内容を理解するのは簡単ではありません。

ここまでは少し「難しさ」の話ばかりしてきましたが、それでもなお、私は KCL への参加を皆さんに強くおすすめします。英語が「得意」な人にも、「苦手」な人にも、です。もちろん、「行ったら英語ができるようになる」というほど甘いものではありません。むしろ実践の場で挫折を感じることもあるでしょう。ですが、英語を使わざるを得ない状況に身を置く経験こそ、英語力を伸ばす最短ルートだと私は思います。

私たちが英語を学ぶ意義は、「海外の人と意思疎通ができるようになること」にあります。その力は、テストのリスニングだけでは身につけません。ネイティブスピーカーとのリアルなコミュニケーションを通して初めて得られるのではないのでしょうか。

そして何より、このプログラムには楽しく、刺激的で、貴重な体験が詰まっています。勇気を出して一歩踏み出せば、新しい世界が必ず開けます。ぜひ参加してみてください！（武蔵高 1）